

水と光のまちづくり推進に関する基本方針（案） ～「水と光の首都大阪」の実現をめざして～

大阪では、この10年、行政・企業・市民等が連携し、水都大阪の再生に取り組んできた。大阪都心部の河川に遊歩道・船着場が整備され、それらの魅力空間を活用した個性的なクルーズ、河川法の規制緩和を活用した日本初の常設川床「北浜テラス」など、**日本で最も先進的な水辺の利活用を行う都市となった。**また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚のライトアップ、さらには冬の風物詩となった大阪・光の饗宴（OSAKA光のルネサンス、御堂筋イルミネーション等）の開催など、**日本でも有数の光景観を持つ都市ともなった。**

我々は、こうした取り組みをさらなる展開へとつなげ、水と光の魅力で**世界の都市間競争に打ち勝つ「水と光の首都大阪」の実現をめざす。**そのために2015年シンボルイヤーをキックオフの年として、2020年に向けて以下の目的を掲げ、オール大阪で取り組む。

◆世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部の「水の回廊」を中心に、他都市に類を見ないリバークルーズや水辺の賑いづくりを進める。
また、大阪の中心を南北に走る御堂筋や中之島を光で彩るとともに、府域の民間主体のプログラムと連携することにより、圧倒的な光景観を創出していく。
こうした取り組みを通じて、世界各国から注目される「水と光のシンボル空間」を実現する。

◆「水と光」の魅力で、誰もがいつでも楽しめるテーマパークに

「水と光」の魅力を大阪のまち全体への魅力に広げ、国内外から観光客が訪れる、誰もがいつでも楽しめる水と光のテーマパークを実現する。

◆水と光による新たなビジネスモデルや賑いの創出に向け、国内外のタレント（才能）が集い、活躍する舞台に

国内外から企業やクリエイティブな人材が集い、水と光による新たなビジネスモデルや賑いが継続的に創出され、民間投資を呼び込む仕組みをつくる。

◆新たな公民連携モデルの構築

民の先駆的な取り組みを主導する「水都大阪パートナーズ」と、行政のワンストップ化を行う「水と光のまちづくり支援本部（水都大阪オーソリティ）」は、都市経営の視点を持って連携を図りながら、共通の目標に向かって、都市魅力づくり・まちづくりを推進する。

また、大阪・光の饗宴において、民間主体の関連ビジネスの創出・活性化を図るなど、公民の連携による都市経営プロジェクトの構築に取り組む。